

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R6①	R5②	
(1)-1	学級経営	意識	83.3%	78.3%	81.0%
		取組	58.3%	47.8%	61.9%
(1)-2	生徒会・委員会活動	意識	100.0%	100.0%	100.0%
		取組	79.2%	78.3%	76.2%
(1)-3	学校行事	意識	95.8%	95.7%	90.0%
		取組	79.2%	78.3%	75.0%
(1)-4	校外・宿泊行事	意識	95.8%	95.7%	85.7%
		取組	83.3%	82.6%	76.2%
(1)-5	道徳教育	意識	87.5%	87.0%	95.2%
		取組	70.8%	52.2%	71.4%
(1)-6	挨拶、言葉遣い、身だしなみ	意識	100.0%	100.0%	100.0%
		取組	87.5%	87.0%	90.5%
(1)-7	地域活動の参加	意識	91.7%	95.7%	85.7%
		取組	66.7%	60.9%	52.4%

(回答数) 教職員：23 : 前回より-10%

学校運営協議会からの指摘事項等

○自己有用感がわずかに向上した。生徒には、校内はもとより地域の活動に参加するチャンスをもっと持ってもらいたい。そのためには保護者の理解が不可欠と考えるが、肯定的意見は変わらず低いままである。学習だけでなく、なぜ校内や地域での自主的な活動が生徒の肯定感をあげることに役立つのか、またそれが今後の人生を切り開く、生きる力になるのか、学校から保護者への発信がさらに必要だと考える。

○学級経営に関して、担任の先生は当然取り組んでいらっしゃるが、副担任の先生にはサポートするだけでなく、もっと直接的に取り組みへ参加してほしい。

○教員の道徳教育の取り組みが増えたことは評価したい。

○教員の地域活動への取り組みが増えて、大変嬉しいが、働き方改革が必要な今、現在の実施の仕方では限りがある。どうすれば、先生方に地域とつながっていただけるのか、検討を要する。

1 豊かな人間性と社会性の育成

指標) ①自己有用感80% ②小中合同活動への参加意識75%
③地域・社会への貢献意識85% ④多様性の尊重意識95%

重点) 1 日々の学校生活の自治的活動で育てる
1) 生徒の意見が反映され、生徒が運営する委員会・学校行事・学級
2) 自己の役割を自覚し責任を果たす委員会・学級活動
2 地域から学び、地域の活動への参加で育てる
1) 地域行事や地域活動への生徒の参加と運営体験の実施
2) 「地域の未来と自分」をテーマとした学習の実施

主な取組と実施状況 (●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他)

- 自己申告当初申告で経営計画の重点事項に係る取組の申告を指示し面談で確認
- 生徒会役員が職員会議でカジュアルウィークの企画の提案を実施
- ◎体育大会の地域種目を生徒会が企画・実施 (6/1)
- ◎体育大会のテント設営で多数の生徒がボランティアとして協力 (6/1)
- ◎生徒会で「カジュアルウィーク」を実施 (7/1~7/5)
- ◎整備委員会 (校内美化コンテスト)、給食委員会 (給食キャンペーン)、図書委員会 (図書キャンペーン) を企画・実施
- ◎1年移動教室・3年修学旅行実行委員会で服装、生活のきまりを検討・実施
- 生徒会役員と学校運営協議会委員の懇談会 (7/1)
- ◎生徒会役員がぼんぼ祭りて古本市を出店 (8/24) 募金12,424円を能登半島地震被災地域へ寄付予定
- ◎生徒会役員がはちおうじっ子サミットの取組で、いじめ防止標語を募集、掲示、表彰を実施 (1月)
- ◎2年移動教室実行委員会でスローガンや生活のきまりを検討 (1月)

成果と課題 (○：成果、●：課題)

指標達成率 ①63.1/80=78% ②49.6/75=66% ③76.9/85=90% ④94.5/95=99%

- 経営計画の周知が概ね図れている。生徒の意見や声を活動に反映させることが浸透してきた。
- 生徒・保護者のアンケート結果でも、学級経営、学校運営、多様性の尊重意識の肯定的回答が多く、教職員の指導の成果がうかがえる。
- 地域活動への参加では教職員の意識・取組が高まってきたが、もう少し高いレベルを目指したい。
- 生徒の地域活動への参加意識が前年度並みにとどまっている。態度においても50%を下回っている。
- 3校合同活動については、第3学年で児童・生徒交流を実施したが、調査結果の向上が見られない。
- 自己有用感が63.1%と向上せず、学校生活や地域活動等で活躍の場をさらに広げていく必要がある。

改善の方向性

○生徒の意見を反映した委員会活動・学級活動が浸透し、諸活動において生徒の声を活かした取組がさらに前進した。次年度も生徒主体の活動を推進し、生徒の実感を高め自己肯定感を高めていく。

➔小中一貫教育の取組として中3と小6の交流会を実施し、中学生が主体的に生き生きと活動していた。次年度は交流内容を生徒に検討させる。また、学校生活や地域活動における生徒主体の活動をさらに進めることにより生徒の自治力をさらに高め、誰もが自己有用感をもち豊かな心を育む学校づくりなどを進めていく。さらに、生徒主体の活動の振り替えりを行い、成果や生徒の取組のよさをフィードバックしていく。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R6①	R5②	
1-7	学級経営	生徒	91.7%	91.6%	90.2%
		保護者	85.2%	86.3%	87.6%
		地域	77.8%	55.6%	63.6%
2-1	学校運営(生徒の声の反映)	生徒	90.4%	84.8%	88.4%
		保護者	70.8%	80.4%	未調査
		地域	66.7%	77.8%	63.6%
3-4	多様性の尊重意識	生徒	94.5%	92.0%	94.2%
		保護者	89.5%	88.0%	87.1%
		地域	88.9%	77.8%	63.6%
3-5	自己有用感	生徒	63.1%	60.9%	63.7%
		保護者	69.6%	69.2%	68.4%
		地域	100.0%	77.8%	81.8%
3-6	3校合同活動への参加態度	生徒	49.6%	49.5%	55.4%
		保護者	41.7%	42.0%	38.0%
		地域	88.9%	88.9%	90.9%
3-7	地域連携	生徒	78.2%	74.0%	62.2%
		保護者	42.1%	41.4%	41.2%
		地域	100.0%	88.9%	90.9%
3-8	地域社会への貢献意識	生徒	76.9%	67.9%	78.6%
		保護者	44.3%	43.5%	47.1%
		地域	88.9%	77.8%	90.9%
3-9	地域社会への貢献態度	生徒	48.6%	43.3%	未調査
		保護者	29.6%	33.1%	未調査
		地域	100.0%	100.0%	未調査

(回答数) 生徒：365 保護者：115 地域：9

□ 実績

- <学校行事への保護者等の来校数>
- 体育大会 (6/1) 960名、地域種目参加児童数 105名
- 道徳授業地区公開講座① (7/3) 40名
- 学校公開 (10/4~9) 延べ139名
- <地域活動への教職員・生徒の参加数>
- 地域パトロール (6/6) 教職員4名 地域38名
- (8/24) 教職員4名 地域 名
- (12/5) 教職員5名 地域21名
- 地域清掃 (7/6) 教職員6名 生徒48名 地域40名
- 学校活動支援者等 46名 PTAサポーター249名
- 浄瑠璃祭り (11/18) 生徒ボランティア31名・部活動63名
- 落ち葉掃き (11/22) 生徒59名

2 学力の向上

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R6①	R5②	
(2)-1	授業Ⅰ	意識	95.8%	95.7%	95.2%
		取組	83.3%	87.0%	85.7%
(2)-2	学習評価	意識	95.8%	95.7%	95.2%
		取組	79.2%	82.6%	76.2%
(2)-3	学習機会の確保	意識	87.5%	87.0%	81.0%
		取組	58.3%	65.2%	47.6%
(2)-4	学力調査結果の活用	意識	91.7%	78.3%	57.1%
		取組	29.2%	30.4%	14.3%
(2)-5	授業Ⅱ	意識	95.8%	95.7%	95.2%
		取組	70.8%	78.3%	71.4%
(2)-6	総合的な学習の時間	意識	95.8%	91.3%	85.0%
		取組	50.0%	47.8%	65.0%

：前回より-10%

学校運営協議会からの指摘事項等

○授業に関することについては、教員の意識も高く取り組みもできていて、生徒・保護者も肯定的回答が多くことから、教員の努力が結果を出しており、高く評価できる。
○教員の学力調査結果の活用が少ない。各生徒の結果への指導に止まっただけではないだろうか。今年は特に国語の「書くこと」に課題が見られた。これはすべての教科で必要な力になることから、国語科だけでなく、すべての教科で文章の力を伸ばすことを意識して指導をお願いしたい。

□ 生徒の授業評価

	学習のねらい等	教え方	ICT機器の活用	授業の進め方	授業時間	学習の評価	予習・復習
国語	97.2%	93.8%	48.1%	90.0%	92.8%	91.1%	52.5%
社会	96.6%	95.6%	78.4%	94.0%	95.8%	93.0%	65.3%
数学	90.6%	87.5%	47.2%	90.0%	97.2%	89.2%	77.5%
理科	84.9%	84.3%	56.8%	87.8%	91.0%	82.7%	61.9%
英語	85.8%	92.8%	93.9%	93.1%	95.8%	90.0%	77.2%
音楽	91.4%	96.4%	52.8%	96.7%	95.0%	94.4%	34.4%
美術	96.1%	94.2%	79.2%	93.9%	90.8%	93.6%	30.0%
保体	94.7%	92.5%	53.6%	91.4%	88.9%	89.2%	30.6%
技術	93.9%	84.4%	58.3%	89.4%	93.9%	86.7%	25.0%
家庭	95.8%	93.3%	78.6%	92.8%	94.4%	91.1%	31.9%

指標) ①習得目標問題正答率80以上の割合 国語90% 数学90%
②習得目標問題の平均正答率 国語90 数学90

重点) 1 学習機会の確保とつまずきのある生徒を支援する
1) 授業と家庭学習を一体化させた学習指導（授業Plus）の実施
2) 学習端末や補充教室等による学ぶ機会と支援の多様化
2 思考力・判断力・表現力を高める授業を行う
1) 話し合い・グループ活動を積極的に行う授業の実施
2) プレゼンテーション力の質を高める学習活動の実施

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

- 当初申告で経営計画の重点事項に対する取組の申告を指示し、職員会議で授業観察の観点を提示
- 保護者会にて評価・評定の説明会を実施（4/20）
- 単元ごとに授業アンケートを実施（理科）
- 合唱曲音源の学習端末への掲載（音楽）、Google classroomを活用した課題作成（数学）
- 新聞への投書の授業において課題設定・情報活用・プレゼンテーションを実施（国語）
- 英語でパフォーマンステスト（スピーチ）を実施
- 漢字検定78名、英語検定①64名 ②58名、数学検定13名の実施 計155名
- ◎ESAT-J3の結果 平均スコア75.4 B以上の割合80.8%（英語）
- 「走れメロス」を各班で脚本化し演劇形式で発表（国語）

成果と課題（○：成果、●：課題）

指標達成率	①国語	1年82.9/90=92%	2年94.6/90=105%	3年92.5/90=102%
	①数学	1年84.0/90=93%	2年92.2/90=102%	3年91.0/90=101%
	②国語	1年87.6/90=97%	2年92.8/90=103%	3年90.3/90=100%
	②数学	1年88.6/90=98%	2年91.8/90=102%	3年91.4/90=101%

○経営計画を踏まえた教職員の具体的な取組が前年度より増えている。
○生徒の授業評価も、肯定的な回答がICT危機の活用の項目を除いて90%前後で概ね良好である。
○生徒アンケート結果では、学力に係る重点項目に対して90%以上が肯定的な回答となっている。
○ESAT-J3の結果では、平均スコア、B以上の割合が高く、重点項目「授業Ⅱ」の成果と考えられる。
●授業でのICT機器の活用では、やや改善が見られるが依然として教科間の差が大きい。
●家庭学習として予習・復習に取り組む生徒が5教科で50～80%と前年度とほぼ同様であり、改善傾向あるとは言えない。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R6①	R5②	
1-8	学習指導(話し合い、ICT活用)	生徒	94.8%	96.1%	96.8%
		保護者	91.3%	94.1%	85.9%
		地域	55.6%	55.6%	54.5%
1-9	適正な評価	生徒	86.2%	83.9%	83.7%
		保護者	77.4%	66.1%	74.9%
		地域	44.4%	44.4%	36.4%
1-12	環境整備	生徒	91.7%	92.3%	92.5%
		保護者	85.2%	85.2%	83.2%
		地域	100.0%	77.8%	72.7%
2-4	学習指導(補充学習)	生徒	78.1%	81.0%	85.5%
		保護者	76.1%	72.6%	66.1%
		地域	87.5%	55.6%	63.6%
3-1	学習指導(分かりやすい授業)	生徒	95.3%	93.4%	92.7%
		保護者	70.4%	68.6%	69.9%
		地域	55.6%	66.7%	36.4%
3-2	学習指導(思考力・判断力・表現力)	生徒	92.6%	92.3%	90.4%
		保護者	69.6%	61.9%	65.1%
		地域	77.8%	66.7%	36.4%
3-3	学習指導(家庭学習)	生徒	72.7%	65.6%	73.2%
		保護者	67.5%	69.8%	72.7%
		地域	66.7%	55.6%	36.4%

学校運営協議会からの指摘事項等

○家庭学習に関しては、学校の授業を補う大切な役割があると思う。必要な場面では、うまく授業と家庭学習をつなげる仕掛け（工夫）ができないだろうか。
○生徒同士がコミュニケーションをとる授業が増えている。その上で意見を言いやすい雰囲気作りをしている先生が多いと感じる。「主体的で対話的で深い学び」に近づいている。

改善の方向性

○習得目標問題の達成率が高く、義務教育段階で最低限身に付けなければならない学習内容の習得ができている。→**基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図るために、授業及び家庭学習を一体的に計画（授業Plus）を引き続き実施していく。**
○全教科において、思考力・判断力・表現力高める授業づくりが進んでいる。
→**日常的に話し合い活動・グループ活動（協働学習）を単元や学習のまとまりにおいて計画的に実施し、生徒が学びをOutputする発表活動をさらに推進していく。**
○授業における学習端末の効果的な活用を引き続き模索していく。
→**協働学習を計画的に設定し学習端末を活用するとともに、発表活動を意図的に行うことによりスライドの作成や話し方のスキルアップを行いプレゼンテーション力の質をさらに高めていく。**

□ 学力調査の結果

(1)-1 市学力調査（令和6年度第2回）

	1年		2年		3年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語	30.0%	74.3	24.5%	77.4		
数学	53.5%	64.9	16.5%	59.3		

(1)-2 市学力調査（令和6年度第1回）

	1年		2年		3年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語	28.6%	72.0	46.7%	79.0	49.0%	78.6
数学	57.7%	78.1	30.4%	63.5	14.8%	49.9

(2)-1 はちおうじっ子ミニマム（令和6年度第2回）

	1年		2年		3年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語	82.9%	87.6	94.6%	92.8	92.5%	90.3
数学	84.0%	88.6	92.2%	91.8	91.0%	91.4

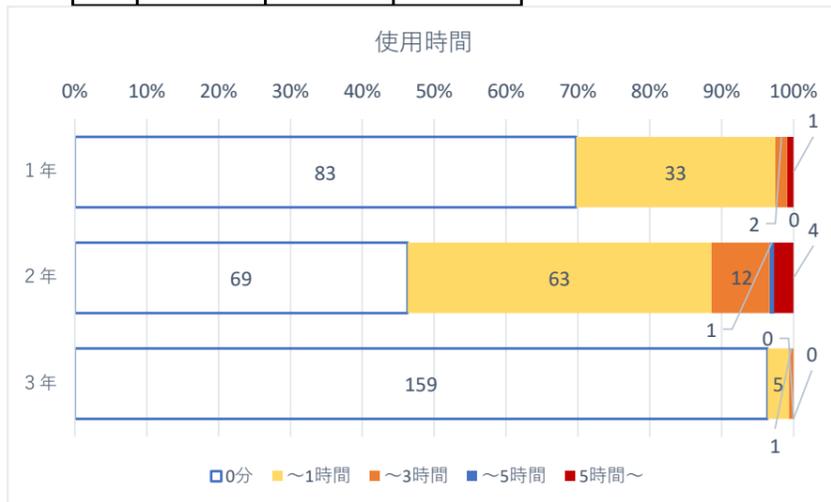
(2)-2 はちおうじっ子ミニマム（令和6年度第1回）

	1年		2年		3年	
	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率	正答80以上	正答率
国語	80.2%	85.5	92.8%	89.3	91.3%	90.4
数学	73.1%	85.5	83.5%	88.2	84.0%	90.0

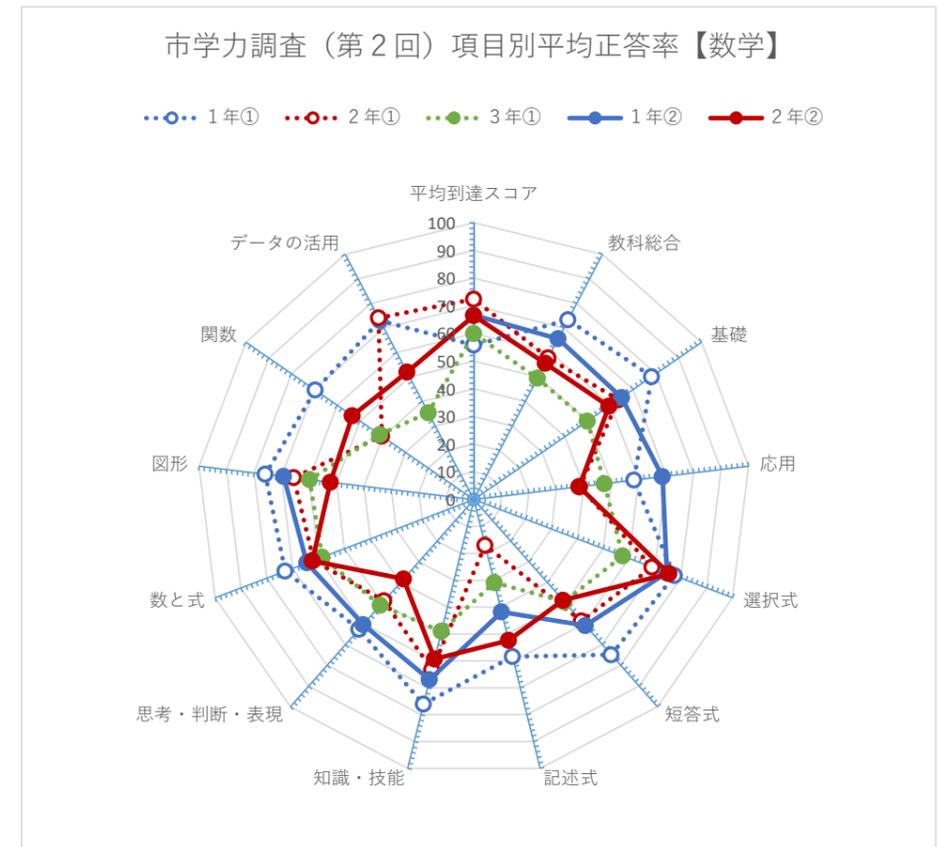
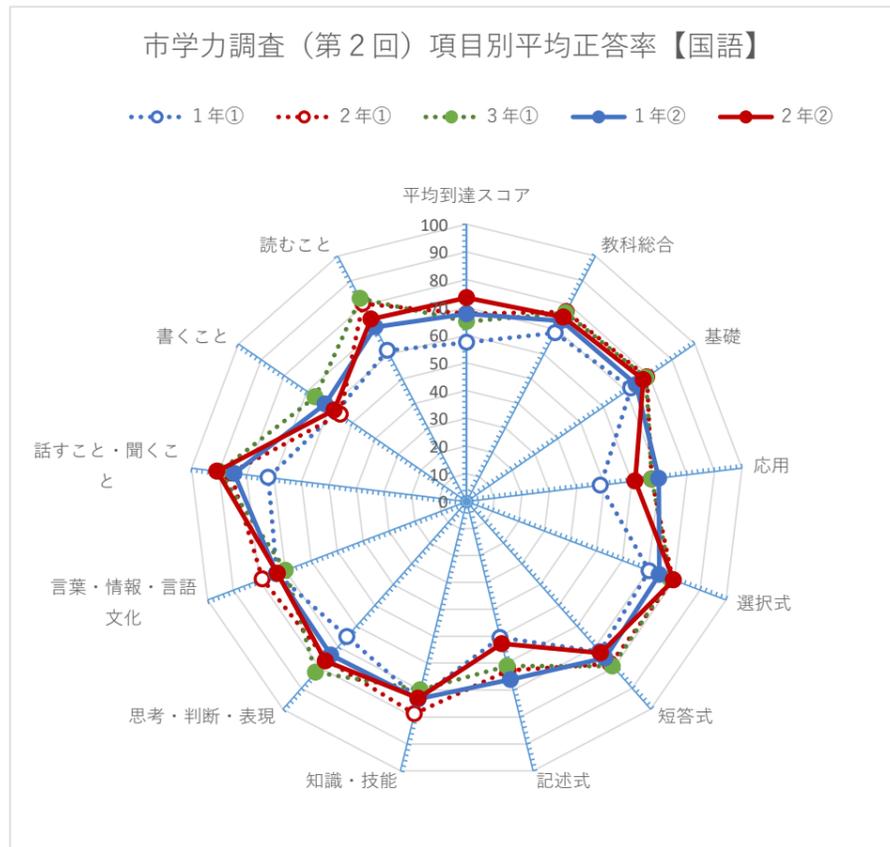
□ 学習端末活用状況

(1) ミライシードの取組状況（8月末現在）

	使用者率	平均使用時間	最大使用時間
1年	24.2%	26分	5時間33分
2年	47.9%	37分	7時間26分
3年	0.8%	28分	1時間56分



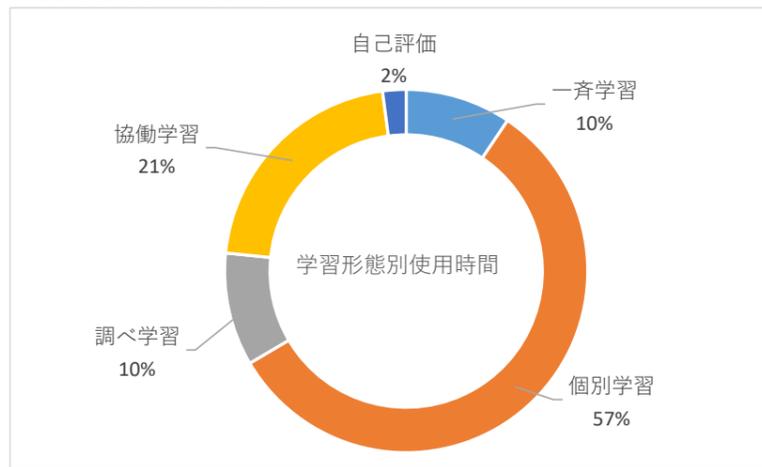
(2) 市学力調査（第2回）項目別平均正答率



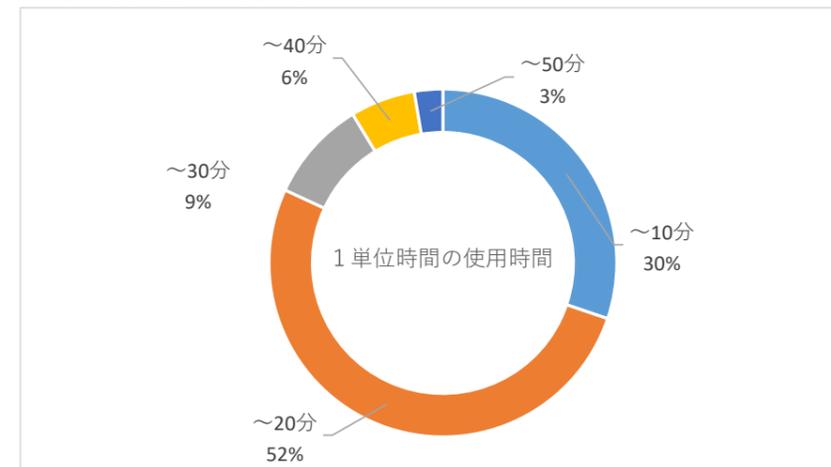
(2) 授業における学習端末の使用回数（12月末現在）

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語	道徳	学活	総合	計	総使用時間
1年	24	47	102	11		9				49	2	1	5	250	72 h 00m
2年	10	22	44	12			2	2		48	1	2	12	155	48 h 20m
3年			13			9	57			36		1	5	121	39 h 30m

(3) 学習態様別の使用時間



(4) 1単位時間での使用時間



□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R6①	R5②	
(3)-1	相談機会の多様化	意識	91.7%	87.0%	100.0%
		取組	41.7%	43.5%	66.7%
(3)-2	外部機関との連携	意識	87.5%	82.6%	95.2%
		取組	45.8%	43.5%	57.1%
(3)-3	いじめ防止	意識	95.8%	95.7%	95.2%
		取組	54.2%	52.2%	76.2%
(3)-4	生徒指導	意識	100.0%	100.0%	100.0%
		取組	66.7%	69.6%	76.2%
(3)-5	Q-U検査の活用	意識	91.7%	95.7%	71.4%
		取組	25.0%	39.1%	42.9%
(3)-6	特別支援教育	意識	70.8%	69.6%	76.2%
		取組	29.2%	21.7%	38.1%
(3)-7	キャリア教育	意識	91.7%	82.6%	85.7%
		取組	58.3%	39.1%	38.1%
(3)-8	安全教育	意識	95.8%	95.7%	95.2%
		取組	50.0%	47.8%	66.7%

：前回より-10%

学校運営協議会からの指摘事項等

○特別支援教育については、教員の取り組みも生徒・保護者の理解も低い状態が続いている。特別支援教育は支援の必要な生徒だけでなく、その他の多様な生徒を支える基本となるべき教育であるから、しっかりと取り組んでいただきたい。各教員が深く学び、合理的配慮を提案できたりスムーズに実施したり実践できる体制が望まれる。個々の生徒へのきめ細かな対応にもつながるはずである。さらに生徒の理解を深めるための障害理解教育や保護者への啓発が必要であり、学校運営協議会でも対策を考えたい。

3 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実

指標) ①学校満足度 ②相談機会への満足度 生徒90% 保護者85%

- 重点)
- 相談機会の多様化を進める
 - 学習、生活、いじめ防止等、生徒の課題に即した相談機会づくり
 - 個々の特性とQ-U分析を活かした生徒指導の実施
 - 体験的な活動を生徒のキャリア形成につなげる
 - キャリアパスポートを活用した生徒の未来像の形成
 - 個々の状況に応じた進路ガイダンスと相談の実施

主な取組と実施状況 (●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他)

- 生徒支援部を新設し、不登校問題と特別支援教育を関連付けて対応する体制を構築
- アレルギー事故に係る初動対応のロールプレイングの実施 (7/19)
- 登校支援委員会 (毎週金曜日1校時)、校内委員会 (毎週水曜日2校時) に実施
- いじめ防止対策委員会 (毎週金曜日6校時) に実施
- いじめ防止プログラムの実施 (6/6)
- Q-U検査の実施 (6月) と生徒指導への活用
- 職員室前スペースを自習スペースとして机や電灯を整備 (8月末)
- SSWや子ども家庭支援センター、医療機関と新たな連携の実施 (12月)
- ◎生徒会がはちおうじっ子サミットの取組の一環として、「いじめ防止標語」を募集し廊下に掲示するとともに、優秀作品の表彰を企画・実施 (1月)

成果と課題 (○：成果、●：課題)

指標達成率 生徒 ①91.4/90=102% ②82.8/90=92% 保護者 ①85.2/85=100% ②80.7/85=94%

- 経営計画への意識化は概ね図れており、指標達成率も90%を超えている。
- 生徒・保護者アンケートにおいても、一部の項目を除いて90%前後が肯定的な回答となっている。
- 特別支援教育への理解や取組に対する教職員及び生徒・保護者の肯定的な回答が依然として低く、引き続き改善に取り組む必要がある。
- 教職員アンケートでは、各項目の取組が50%前後となっており、担当者以外の取組に課題があり、全教職員の取組となるよう工夫・計画していく必要がある。

改善の方向性

- 8月末に不登校生徒等の居場所も兼ねて職員室前に自習スペースを整備し、今後活用していくことを通して多様な登校スタイルに対応する手立てとしていく。
- 生徒支援部を新設し、不登校や特別な支援を必要とする生徒への対応をさらに充実させていく。
- 次年度3学級減、教職員5名減の状況を踏まえ、生徒支援部を生徒指導部内に位置付け、不登校問題に係る東京都の事業の実施及び不登校問題の改善と特別支援教育の充実に向けて一体的に取り組む体制に見直す。
- 特別支援教育への理解・啓発をさらに進めていく。
- 特別支援教育に係る研修を計画的に進めるとともに、生徒支援部を核とした相談活動や生徒支援の充実に向けた取組を検討していく。
- 安全で過ごしやすい生活環境の整備を進めていく。
- 生活のきまりや教室環境について生徒の声を聞きながらより良い環境づくりに向けてを検討していく。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R6①	R5②	
1-4	安全指導	生徒	95.6%	94.7%	96.5%
		保護者	98.3%	95.3%	96.3%
		地域	88.9%	66.7%	72.7%
1-5	人権教育	生徒	91.2%	92.0%	91.3%
		保護者	93.9%	88.2%	86.5%
		地域	100.0%	66.7%	72.7%
1-6	いじめ防止への対応	生徒	89.3%	89.5%	88.2%
		保護者	76.5%	75.1%	76.3%
		地域	88.9%	55.6%	54.5%
1-10	生活指導	生徒	93.9%	95.1%	93.3%
		保護者	94.7%	92.3%	88.8%
		地域	100.0%	77.8%	72.7%
1-11	キャリア教育	生徒	88.5%	87.6%	89.0%
		保護者	96.5%	94.6%	93.5%
		地域	88.9%	77.8%	54.5%
1-13	特別支援教育	生徒	66.6%	68.0%	72.2%
		保護者	40.0%	36.7%	40.6%
		地域	77.8%	77.8%	54.5%
2-5	生活指導(生活指導の取組)	生徒	94.0%	93.1%	94.8%
		保護者	93.0%	90.5%	86.6%
		地域	100.0%	66.7%	81.8%
2-7	相談機会の満足度	生徒	82.8%	84.3%	85.2%
		保護者	80.7%	78.1%	81.8%
		地域	66.7%	44.4%	54.5%
3-10	学校満足度	生徒	91.4%	91.4%	88.4%
		保護者	85.2%	85.2%	83.9%
		地域	88.9%	66.7%	90.9%

学校運営協議会からの指摘事項等

○キャリア教育について、生徒も保護者も満足度は高い。だがキャリア教育=進路指導ではないことは言うまでもない。生徒が自分自身を知り、様々な選択肢があることから生き方を考える機会はすべてキャリア教育と言える。教科を超えて、様々な場面で意識してほしい。

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R6①	R5②	
(4)-1	小中一貫教育	意識	91.7%	91.3%	81.0%
		取組	62.5%	43.5%	38.1%
(4)-2	教育活動の一体的な推進	意識	60.9%	71.4%	61.9%
		取組	13.0%	19.0%	19.0%

：前回より-10%

5 その他

□ 教職員（学校経営に係る進捗状況点検）

項番	項目	肯定的回答	R6①	R5②	
(5)-1	開かれた学校づくり	意識	75.0%	82.6%	66.7%
		取組	12.5%	26.1%	38.1%
(5)-2	地域運営学校としての学校運営の充実	意識	70.8%	65.2%	57.1%
		取組	12.5%	13.0%	19.0%
(5)-3	PTA・青少対との連携・協力	意識	79.2%	87.0%	66.7%
		取組	45.8%	56.5%	38.1%
(5)-4	部活動の充実	意識	91.7%	91.3%	90.5%
		取組	58.3%	73.9%	66.7%
(5)-5	サービス事故防止	意識	91.7%	91.3%	100.0%
		取組	54.2%	65.2%	81.0%
(5)-6	働き方改革の推進	意識	70.8%	73.9%	57.1%
		取組	41.7%	52.2%	19.0%
(5)-7	30周年行事の検討	意識	62.5%	52.2%	47.6%
		取組	37.5%	34.8%	19.0%
(5)-8	新型コロナウイルスの感染防止への対応	意識	75.0%	78.3%	75.0%
		取組	37.5%	39.1%	55.0%

：前回より-10%

4 中学校区3校（松木中、松木小、長池小）の教育活動の一体的な推進

中期重点) 1 中学校区3校が合同で行う活動の再編成（学習指導・特別活動等）

- ① 中学校区の小・中の合同活動の推進
- ② 中学校区の小学校の活動への中学生のボランティア参加の促進
- ③ 学校・地域のネットワークを活かした相談・支援の充実
- ④ 小学校高学年からの系統的なキャリア指導計画の策定と実施

主な取組と実施状況（●：管理職、○：教職員、◎：生徒、□：その他）

- 3校合同引き渡し訓練（5/2）に実施
- ◎長池小運動会（5/25）に1～3年の生徒30名強が運営ボランティアで参加
- ◎はちおうじっ子サミットに向けて児童会と生徒会で協議（7/11）、参加（7/23）
- ◎小学校の夏季学習教室にボランティア参加 延べ10名（7/22～24）
- ◎小・中合同あいさつ運動（8/28～29）に生徒が延べで150名参加
- ◎図書委員会で「小中交流おすすめ本紹介」を企画・実施
- 学校HPを活用した学校情報の発信（2月末現在アクセス数275,009回 前年度：約157,086回）
- 放課後カフェなないろの実施（6/28 55名）（7/9 55名）（11/25 72名）（1/10 57名）
- 月例でMy定時退庁日の設定、超過勤務の状況を集計し助言
- 12月末現在の教職員の時間外勤務の状況 平均値43時間12分 前年度：53時間40分
- 小中交流会を新たに実施し、中3と小6が一緒に校歌の練習や交流を実施（9/13）
- 美術科の生徒の作品を長池小・松木小の展覧会に出展（長池小1/24・25 松木小2/7・8）

成果と課題（○：成果、●：課題）

- 生徒・保護者アンケートでは、一部の設問を除いて80%を超える肯定的な回答を得た。
- 情報発信では、学校ホームページのアクセス数が前年度を大きく上回っている。
- 小中一貫教育では、児童・生徒の交流や委員会等で小学校を対象とした取組が行われるようになった。
- 働き方改革では、My定時退庁日の設定や事務処理の時間を確保することで、職員の意識・行動に大きな変化がみられ、時間外勤務の状況も大きく改善した。
- 地域運営学校としての学校運営の取組への各教職員の認識が不足しており、該当する教育活動における意識化に向けた啓発をしていく必要がある。
- サービス事故防止に係る教職員の取組の項目で数値の低下があり、改めてサービス事故に対する日常的な危機意識や取組を行っていく必要がある。

改善の方向性

- 中学校区3校の教育活動を一体的に進める取組を進める。
- 児童・生徒が協働する活動として小・中学生交流活動、児童会・生徒会の合同活動などを企画・実施する。
- サービス事故防止に向けた危機意識の日常化を図る。
- サービス事故防止研修や講話の計画的な実施、日常の職務におけるサービス事故防止に向けた教職員の共通実践を検討していく。
- 働き方改革をさらに推進していく。
- 週27時間授業を下回る学校運営実現に向け、学校行事をはじめ教育活動全般の精選・見直しを組織的に行っていく。
- 部活動改革ロードマップを踏まえて部活動再編を進める。
- 新部活動への移行に向け、他校や地域団体との連携を図っていく。

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R6①	R5②	
1-2	特色ある学校づくり	生徒	88.2%	84.8%	87.0%
		保護者	97.4%	97.0%	98.4%
		地域	100.0%	100.0%	90.9%
1-3	小中一貫教育	生徒	77.5%	77.4%	76.5%
		保護者	87.8%	81.1%	85.5%
		地域	100.0%	100.0%	72.7%
3-6	3校合同活動への参加態度（再掲）	生徒	49.6%	49.5%	55.4%
		保護者	41.7%	42.0%	38.0%
		地域	88.9%	88.9%	90.9%

□ 生徒・保護者・地域アンケート

項番	設問	肯定的回答	R6①	R5②	
2-6	部活動指導	生徒	83.6%	87.4%	90.1%
		保護者	69.3%	73.2%	81.3%
		地域	67%	77.8%	100.0%
2-8	情報発信	生徒	79.9%	77.0%	80.8%
		保護者	95.6%	92.3%	95.2%
		地域	88.9%	88.9%	81.8%
1-1	学校経営方針の周知	生徒	68.6%	65.5%	78.2%
		保護者	87.0%	85.2%	82.9%
		地域	100.0%	77.8%	81.8%
2-2	学校運営（教職員の協力体制）	生徒	89.3%	90.1%	89.9%
		保護者	69.6%	66.3%	66.8%
		地域	100.0%	66.7%	81.8%
2-3	学校運営（教職員の熱心さ）	生徒	93.4%	92.3%	93.3%
		保護者	83.3%	85.0%	84.9%
		地域	100.0%	77.8%	81.8%

学校運営協議会からの指摘事項等

- 小中一貫教育については、取り組みが進んでいることがよくわかり、評価したい。
- 「開かれた学校づくり」「地域運営学校としての学校運営の充実」「PTA・青少対との連携協力」については、教員の取り組みがあまり進まなかった。これらは管理職だけの役割ではないはずで、学校全体で地域と一体的に協力して、同じ目標に向かっていくことが必要ではないのだろうか。松木中学校は地域ともにある学校で、一緒に課題を共有し、地域の子供を育てたいと様々な方と連携して学校教育を行っている「地域運営学校」であるということを再認識してほしいと思う。先生方一人ひとりの気持ちが地域との連携に向いているだろうか。学校運営協議会も自省したい。